

(前ページ) 最下段から

やっぱりこの現実を、もっと組合運動に反映させよう。

将来は、三池労組は少数精鋭主義でゆくのだとの声もあるが、そんなことで発展はない。むしろ広く組織を伸べてゆくべきだと思ふがどうか。

墨田(宮浦) たしかに今の職場での闘いは、苦痛のタネになっている。

こんど富浦では江上さんが処分を受けたが、原因は、命を守るために徹底的に雇用の責任を追及したことにある。ところが職場には、かえって「あんまりはねがりはせんじやったか」と見る傾向がある。問題だ。江上さんのように、徹底的に責任を追及するのを確立してこそ、命も守れると思うがどうか。

一 CO 患者が見た

厳しい現実

池田(三川) 私はCO患者だが、昨年一月協定にもとづいて坑内の職場へ復帰した。さがつてびっくりしたことは、三十八年の大爆発の反省が、水袋をぶらさげるなど形式的なもので終っていることだ。

その一方で労働者はぬたんときたわれているところを見て、自分が果してこの坑内の仕事に耐えることができるか不安だ。

ひどいことに秘よりも明らかに重傷患者が、ヘルトコンベアーが回転し、炭庫の走っている危険な坑道で、しかも一人で仕事をやらされているのを見た。その人は、休憩所においた自分のヘルトウを忘れた人である。

「なぜ、こんな危いことをさせるのか」——係員に迫ったことである。実際こんな状態では、いつまたどこで大災害が起きないともかきりないことを思えば、CO患者でない人にとっても問題となるはずである。だから私は事実を訴えてみんなに考えてもらい、電灯があつて、電話があつてCOマシクがあるところに休憩所をつくらせることとした。

ところがそんな積極的な行動をする者を、逆にスタッフもんにしてしまい、中にはCO患者をこつち側からマシク殺してしまうような思想さえある。ひどいことに、坑外にゆくCO患者は、ナベの底までのそかれかねいところまで追いこまれていて、「もうCO患者の呼び名なんか即刻返上して、いっそ会社の指示通り無理と知る仕事にでも飛びこんでやれ」と、すてはちになつて人がある。ここに合理化の本質を見る感じがしてならない。どしどし問題を提起して闘っていくべきだ。

きつて、どしどし問題を提起して闘っていくべきだ。めて考えるべきではないだろうか。

おそろへき錯覚

阿久津(本所) 第一に、もっと現場の実状を明らかにすること。第二に、来年は安保を迎えるが、三池闘争の犠牲者たちがどうして闘っているか、明らかにすること。第三にこれからCO闘争を闘うために、これまでの総括をなすべきだと思ふ。第四次合理化阻止闘争を闘う資格に、CO闘争があつたことを確認する必要がある。

CO闘争よりも残業を減らすのが、私たちの生活は断じて残業や日曜出勤でかたずくものではない。それにタマされたとき、会社はたえ残業・日曜出勤はせめても、金はたえなくなるにきまつていて、とんでもない錯覚と知るべきだ。第二組合対策については、もっと実践的な方針を確立する必要があると思うがどうか。

闘う者は少数かも知れないが……

中(原三川) 私はこんど全国青年団結集会に参加したが、余りにも自分が温室育ちだったことを反省している。集会に参加した仲間の中には、分裂組合と組合とを丸がえされていくところから、あるいは会社と組合とがぐるぐるの弾圧の下をくぐって、かけつけた人さえいた。それでも仲間たちは闘っている。

会社はいまIE、QC、ZDとあらゆる政策を強めながら、労働者の思想を萎えようとしてくるにきまつていて、雇用の責任を「たえ三池労組員であるうが、がまたす人には金をやる。先山にせよ」と。

私は現在三川の五十ループ線に一人配役されている。はじめは抗議していたが、そのたびに「私にいつかつちやうど同じこと」を逃げられるので、後でいつかつちやうど同じこと「いつかつちやうど同じこと」と無関心になつていくことに気がつく。やっぱ、あくまで自分がおかれていく現場の実態を見おし、意識をふるいたてて闘うべきだと思ふ。

そういう事実からすれば、闘いの総括も「一定の成果があつた」といふようなおさなりなやり方ではなく、組合員一人ひとりが闘ってきた事実をもとに、内容ある総括をすべきだと思ふ。

いま私は、闘う者は常に少数かも知れないが、そこそこ大衆の心と通ひ合ひがあることを信じている。

水町(宮浦) 遺族に対する補償の問題はどうなっているか。

来年は七〇年安保の年である。このとき「三池と安保」で闘って岸内閣を打倒した経験に学び、あのときの安保改訂反対だったのに対して、こんどは破壊の闘いにこそ全民主勢力の共闘が必要と思ふがどうか。

ひき出す国費で撤退

退たくらむ三井

伊藤(本所) 独立資本は、三池労組に対して一億四千万円の借金を押しつけてきた。第二組合との協定にもとづく押しの攻撃の意図するものは、一体何なのか。それは本質的にはCO闘争のもつ真の意義が組合員一人ひとりのものとしてつかまえていなかった弱点からきていると思ふ。

三井は国の財政の中から、多額の資金を獲得するが、だからといって断じて炭鉱の発展のために使つてはならない。私は坑外で測量の仕事をやっているのだから、三井が本心から炭鉱の発展を思ふなら、宮浦と三川の坑口統合などよりもむしろ新開坑をこそ開発するはず。それには目もくれない坑口統合をすすめたことは、炭鉱には国家資金をできるだけ使わなかつた。たとい三井第三工員が計画されているといつても、それにはたつた六億円しか使われない。それさえ、帳面

三井は国の財政の中から、多額の資金を獲得するが、だからといって断じて炭鉱の発展のために使つてはならない。私は坑外で測量の仕事をやっているのだから、三井が本心から炭鉱の発展を思ふなら、宮浦と三川の坑口統合などよりもむしろ新開坑をこそ開発するはず。それには目もくれない坑口統合をすすめたことは、炭鉱には国家資金をできるだけ使わなかつた。たとい三井第三工員が計画されているといつても、それにはたつた六億円しか使われない。それさえ、帳面

三井は国の財政の中から、多額の資金を獲得するが、だからといって断じて炭鉱の発展のために使つてはならない。私は坑外で測量の仕事をやっているのだから、三井が本心から炭鉱の発展を思ふなら、宮浦と三川の坑口統合などよりもむしろ新開坑をこそ開発するはず。それには目もくれない坑口統合をすすめたことは、炭鉱には国家資金をできるだけ使わなかつた。たとい三井第三工員が計画されているといつても、それにはたつた六億円しか使われない。それさえ、帳面

安保を破棄する力を

第二組合員ぐるみの体制づくり

古賀書記長 ④炭労と大地評への働きかけは、それぞれのところで組織的に具体的な方針がきまるのだから、三池としては地域における共闘の場で影響を与えるようにすべきである。

⑤第二組合員の間に犠牲者がたつた場合の抗議スローガン、声をよく聞いて体制確立につとめたい。

⑥現場闘争の場でカッパされた組合員の資金の補償は、これまでやってきていないし、また宮浦などではそんな例がひじょうに多い。この際対策を明確にする必要があると思ふので、さつと検討をはじめることとする。

⑦阻止行動をすすめたとき、生活の苦しさは表面化してきたことが報告されたが、闘いと生活は常に矛盾する。簡単に克服はできないが、これからはその矛盾に留意してやうていきたい。

ソラをくぐらうだけに見られてならぬ。

いま三井は四山にほう大な敷地を準備して、アルミ工場をもつてくる計画だ。国からひきだす金を、三井は必ずその方へまわすに相違ない。私はそこに石炭撤退作戦を見る。文字通り三井の帝国主義的基礎づくりといふことだ。

私は炭鉱の資金を食ひながら、もっぱら三井のインフラの仕事をさせられているが、アルミ工場づくりや港灣工場や三井グリーンランドづくりにかけまわっている。その中の一つ——三井アルミの責任体制がハッキリしている——「当分は金をひきだすための必要から、こころ三井は石炭をたたくようだが、独立すれば当然重油をたきますよ」と。

私たちに限る限り、七〇年安保闘争の一つの課題は、私たちが押取った富と国からひきだす資金とで、帝国主義の基礎づくりをすすめる三井と闘うことだと思ふ。またここには、第四次合理化攻撃の土台もあると思ふがどうか。

岩下(四山) 私たちは長期抵抗路線にもとづいて、差別や合理化攻撃に屈することなく闘ってきたが、いまZDの攻撃の中で休憩所をつくらせることができたし、赤チンもおかせた。道は開けているのだ。

それでも安保条約の破棄をめざし、沖縄返還を勝ち取るために闘おうといふとき、なぜ現場で社共がいつしやに闘うことができないかというのか。

三池魂

全通大分 佐々木 晃

「三池に幸ふ会」では、大分から大牟田までのバスの中もよい。

バスで六時間、もゆられると、愉快な仲間が本姓を出して、次第にだいに心がときほぐれていき、五十七の心が一つになったとき、団結のよき、連帯のすばらしさを感じるのである。



「三井資本から殺された」「会社が殺した」といふものである。この考えを労組員すべてが持っているふうであふり返って全通をみると、その危険度は違つたにしろ、集配途中、その他の事故に対し、「郵政省がケガをさせた」と言つたことがあつたであらうか。

なんともくよくよもあり、残念であり、この面での教育活動をさらに強化しなければならぬと思ふたものである。

補償五百万円獲得

化学同盟京都・関西地本が

化学同盟の京都地本と関西地本は、労災補償五百万円の統一要求を獲得めざし、二月二十日半日ストライキを決定した。

京都地本ではこの日、新日本理化学支部が半日ストに突入。死亡補償および災害等級一級から三級までの、五百万円の回答を引き出した。帝国化成支部は各直二時間の

死なんうち止むるかなア

Kさん 人間の足らんと知れんバツテン、坑内は荒れ放題。事故多かつたは当然かなア。

Hさん 保安状態の悪う問題は雇用に抗議したゆえに処分されたが、そのかげで新炭保安作業はさせん。もうどけんもこけんも、されんでつなつてからあつて、バタバタ保安作業はやらする。係

「三井から殺された」末端の組合員との交流で、三池労組の教育の素晴らしさを感じる言葉があつた。それは昭和三十八年の大爆発以後、統廃する坑内事故